

[成果情報名] カワヅザクラ切り枝の安価な開花促進液の開発

[要 約] カワヅザクラ切り枝の促成時の開花促進液として、1%上白糖と 0.01M クエン酸ナトリウム (pH3.5) に、食用乳化剤を添加した挿し水を用いると、開花の遅れや花径の小型化が抑制され、市販の開花促進液と同程度に開花する。1 枝あたりの資材費は 3.27 円で、市販資材の約 10 分の 1 である。

[キーワード] カワヅザクラ、切り枝、開花液

[担 当] 静岡農林技研・伊豆研セ・生育・加工技術科

[連絡先] 電話 0557-95-2341、電子メール agriizu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 野菜・花き(花き)

[分 類] 技術・普及

[背景・ねらい]

カワヅザクラ切り枝を促成して開花させる場合、花径の小型化などを抑えるため糖を含む開花促進液が必要であるが、市販の開花促進液は 1 枝あたり 30 円であるため、汎用資材を用いた安価な開花促進液が求められている。

[成果の内容・特徴]

- 1 食用の汎用資材（上白糖、クエン酸ナトリウム、乳化剤）を使い、カワヅザクラ切り枝の開花促進液を作成した。
- 2 1%上白糖と 0.01 クエン酸ナトリウムに 100ppm 食用乳化剤を加えた開花促進液で切り枝を開花させると、切り枝基部のぬめり（表 1）や白濁（表 1、図 1）が発生しても、開花の遅れ（図 2）や花径の小型化（図 3）は抑制され、市販の開花促進液と同程度となる。
- 3 作成した開花促進液の 1 枝あたりの資材費は、上白糖とクエン酸がそれぞれ 1.5 円、乳化剤が 0.27 円で、合計 3.27 円である（図表略）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 乳化剤は親水性の高いカプリル酸エステル(CE19D)を使用した。
- 2 クエン酸は pH3.5 のクエン酸ナトリウムとして使用した。

[具体的データ]

表1 異なる組成の開花促進液がカワヅザクラ切り枝の開花に及ぼす影響

処理区 ¹⁾	花径(mm) ²⁾	切り枝基部のぬめり ³⁾	開花促進液の性状 ⁴⁾		
			白濁程度	pH	EC(S/cm)
市販開花促進液	35 ^a ± 2	±	-(-)	3.5 (3.4)	1.14 (0.90)
乳化剤+1%上白糖+0.01Mクエン酸	34 ^a ± 2	+	+(±)	3.2 (3.4)	0.91 (0.64)
1%上白糖+0.01Mクエン酸	30 ^b ± 1	+	±(-)	3.3 (3.4)	0.81 (0.65)
無添加(水道水)	26 ^c ± 1	+	-(-)	5.0 (6.9)	0.15 (0.15)

- 1) 市販開花促進液；50倍ハイフローラBRG、乳化剤；100ppmカプリル酸エステル(CE-19D)
 2) 平均値±標準偏差(各10花) 同一符号間にtukey多重検定により有意差なし(5%)；1/5調査
 3) -無, ±微, +有；12/29調査
 4) -無, ±微, +有；1/9調査、()内は作成時の性状



図1 開花促進液の白濁程度 (左；開花時、右；作成時)

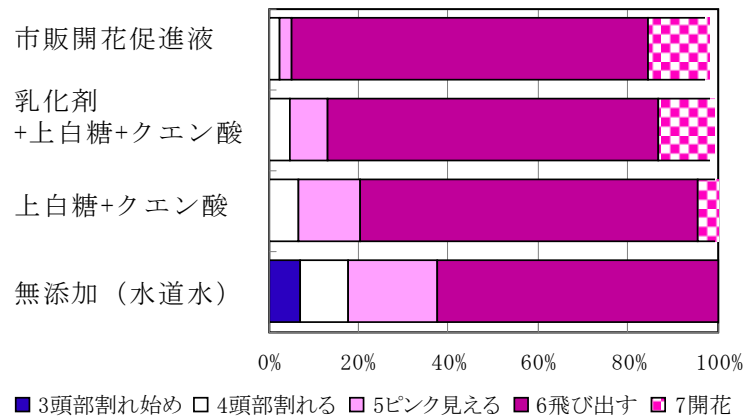


図2 異なる組成で開花させたカワヅザクラ切り枝の開花程度 (各区 40-60 花調査)



図3 異なる組成の開花促進液で開花させたカワヅザクラ (左から、市販開花促進液、乳化剤+上白糖+クエン酸、上白糖+クエン酸、水道水)

[その他]

研究課題名：カワヅザクラ等伊豆特産作物の生産加工技術の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2020～2022年度
 研究担当者：種石始弘、久松奨
 発表論文等：なし